

長沢浄水場 現地視察 行程

長沢浄水場平面図



現地視察行程

1	長沢浄水場 概要説明	水管理センター 2階会議室
2	広報施設 概要説明	
移動		
3	施設紹介 (導水施設等)	○広報施設 (改修中) ①着水井
移動		
4	施設紹介 (浄水施設等)	②活性炭接触池 ③沈でん池 ④急速ろ過池 (太陽光パネル) ⑤配水池 (太陽光パネル)
視察終了 (バス乗車【管理棟前】)		

長沢浄水場

川崎市上下水道局



沿革

長沢浄水場は、相模川を水源とし、施設能力水道10万 m^3 /日、工業用水道10万 m^3 /日の浄水場として、昭和29年に通水を開始しました。

その後、市域の拡大や水需要の増大に併せて数次の拡張を行い、上水道24万 m^3 /日、工業用水道25万 m^3 /日の施設になりましたが、平成18年度から開始した水道事業の再構築計画により上水道の施設能力を28万 m^3 /日とする施設整備を行い、平成28年度からすべての運用を開始しました。

概要

所在地 神奈川県川崎市多摩区三田5丁目1番地1

標高 着水井 83.5m

用地面積 197,591.60 m^2

水源 相模川水系

・相模湖（表流水）・津久井湖（表流水）

浄水方法

・上水道 凝集沈でん→急速ろ過→消毒→配水

・工業用水道 凝集沈でん→配水

施設能力

上水道 280,000 m^3 /日

工業用水道 250,000 m^3 /日

施設配置図

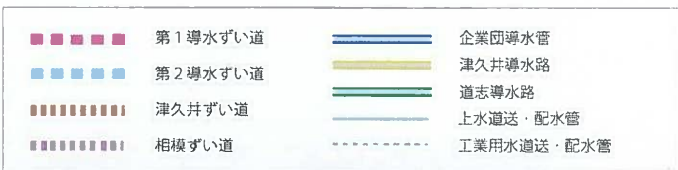




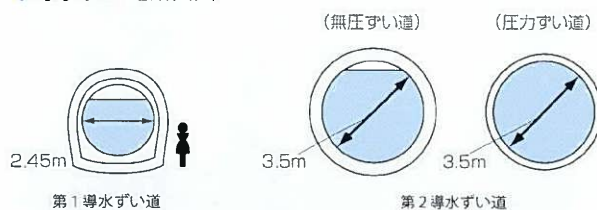
● 相模湖 (有効貯水量 48,200,000^m₃)



● 津久井湖 (有効貯水量 51,200,000^m₃)



◆導水ずい道断面図



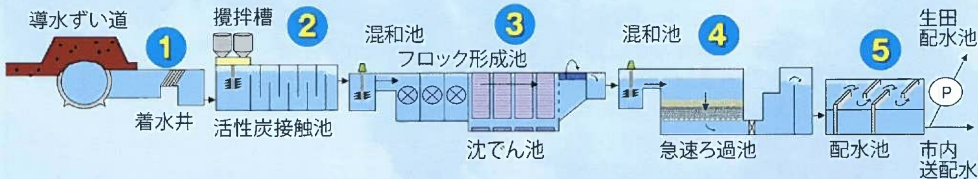
● 沼本ダム原水取水口



● 下九沢分水池

水道施設

浄水処理工程



薬品設備



粉末活性炭注入設備

臭気等が発生した時に粉末活性炭を注入する設備です。



硫酸注入設備

原水のpH調整のため、硫酸や苛性ソーダを注入する設備です。



次亜塩素酸ナトリウム注入設備

殺菌、消毒を行うための次亜塩素酸ナトリウムを自動注入する設備です。

1 着水井



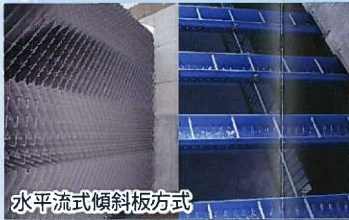
相模湖・津久井湖から導いた原水が到着します。ここから、各沈でん池と隣の東京都長沢浄水場に分水します。

2 活性炭接触池



原水に臭気物質等が含まれている時に、粉末活性炭を注入して取り除きます。

3 沈でん池



水平流式傾斜板方式

水のにごりは、ポリ塩化アルミニウム(PAC)を注入することにより、フロック形成池でフロックとなり4列の傾斜板を通過する間に沈でんします。

4 急速ろ過池



アンシラサイト(無煙炭)と砂の層を通して微細な浮遊物を取り除きます。上部に覆蓋、太陽光パネルを設置しました。

5 配水池

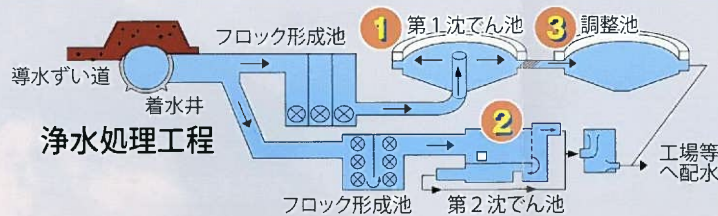


次亜塩素酸ナトリウムで殺菌、消毒した水を貯める施設です。家庭や企業の使用量に応じて配水量を調整することができます。上部に太陽光パネルを設置しました。

各家庭へ



工業用水道施設



1 第1沈でん池



水道施設と同様に、ポリ塩化アルミニウム(PAC)を注入し、水のにごりを取り除いています。原水は沈でん池中央から流れ込み、沈でん後の上澄みの水は周囲から越流します。

2 第2沈でん池



水道施設と同様に、ポリ塩化アルミニウム(PAC)を注入し、水のにごりを取り除いています。上段と下段の二層でフロックを沈でんし、上澄みの水は下段に折り返す場所から流出します。

3 調整池



浄水処理を一定して行いながら、企業の使用量に応じて配水量を調整することができます。

水道・工業用水道共通施設



管理室

集中監視分散制御方式で、各施設の監視と制御を行っています。



ポリ塩化アルミニウム注入設備

フロックを形成させる凝集薬品を自動注入する設備です。

長沢浄水場の再構築

川崎市では、水道事業及び工業用水道事業の再構築計画（平成18年度～平成28年度）に基づき、将来の水需要を踏まえ、浄水場の統廃合等により給水能力をダウンサイジング（水道事業 989,900m³/日⇒758,200m³/日、工業用水道事業 560,000m³/日⇒520,000m³/日）することとし、潮見台浄水場、生田浄水場（水道）を廃止する一方で、長沢浄水場を更新、増強しました。再構築の完了に伴い、長沢浄水場は、より環境に優しく、より災害に強い浄水場になりました。

川崎市の水道の特徴

● 自然流下による水道システム

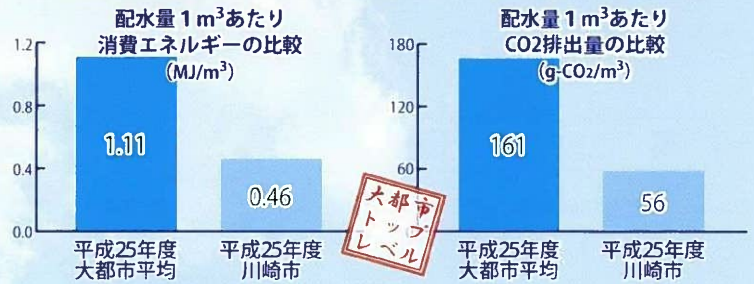
川崎の水道は、水源である相模湖、津久井湖からの導水、浄水場で処理した水道水の配水の大部分を地形の高低差を利用した自然流下により行っています。

● 相模川上流からの取水

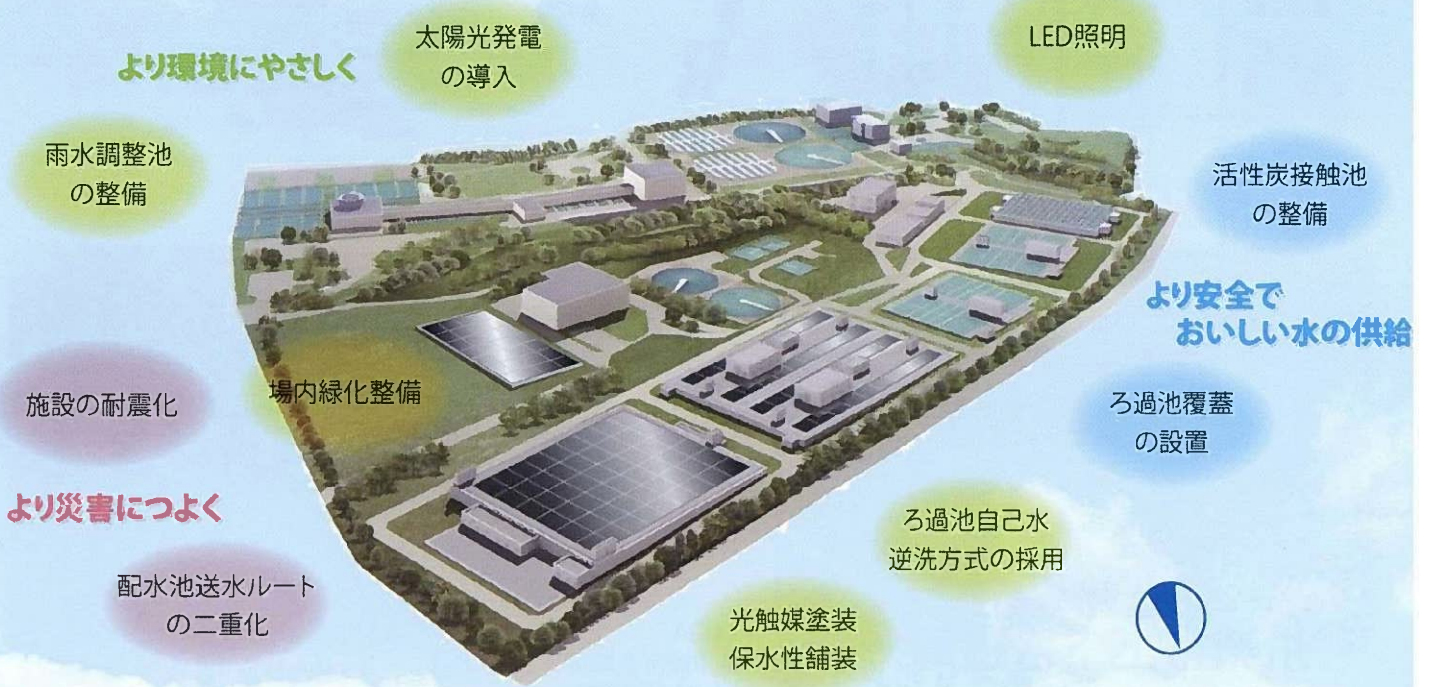
長沢浄水場は、相模川の上流に位置する相模湖、津久井湖の良質な水を原水としています。

● ISO14001の認証取得

長沢浄水場では、平成15年3月にISO14001の認証を取得し、平成27年2月に更新しました。



長沢浄水場再構築の取組





より環境にやさしく

● 太陽光発電の導入

ろ過池や配水池などの上部に発電能力1,155kwの太陽光パネルを設置し、年間電力使用量の約20%を賄います。余った電力は蓄電池に充電し、夜間や災害時に使用します。



● 雨水調整池の整備

浄水場内に降った雨水、ろ過池や配水池で発生した排水を集めて、工業用水として有効利用しています。

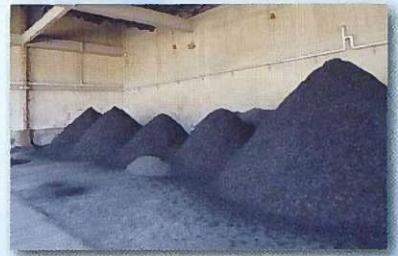


● ろ過池の自己水逆洗方式の採用

ろ過池の更新にあたり、ろ過砂の逆洗方法を洗砂水槽や揚水ポンプを使用しない自己水逆洗方式とすることで、ポンプ動力を削減しています。

● 浄水発生土の利用

沈でん池等で発生した沈殿物は排水処理施設で脱水し改良土とセメントの原材料として再生利用しています。



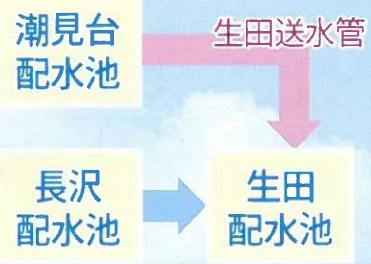
より災害につよく

● 施設の耐震化

沈でん池、ろ過池等の浄水施設を更新することにより、施設の耐震化を図っています。

● 配水池の送水ルート之二重化

潮見台配水池から生田配水池への送水管を、廃止となる既設管を利用して整備し、生田配水池への送水ルートの二重化を図りました。

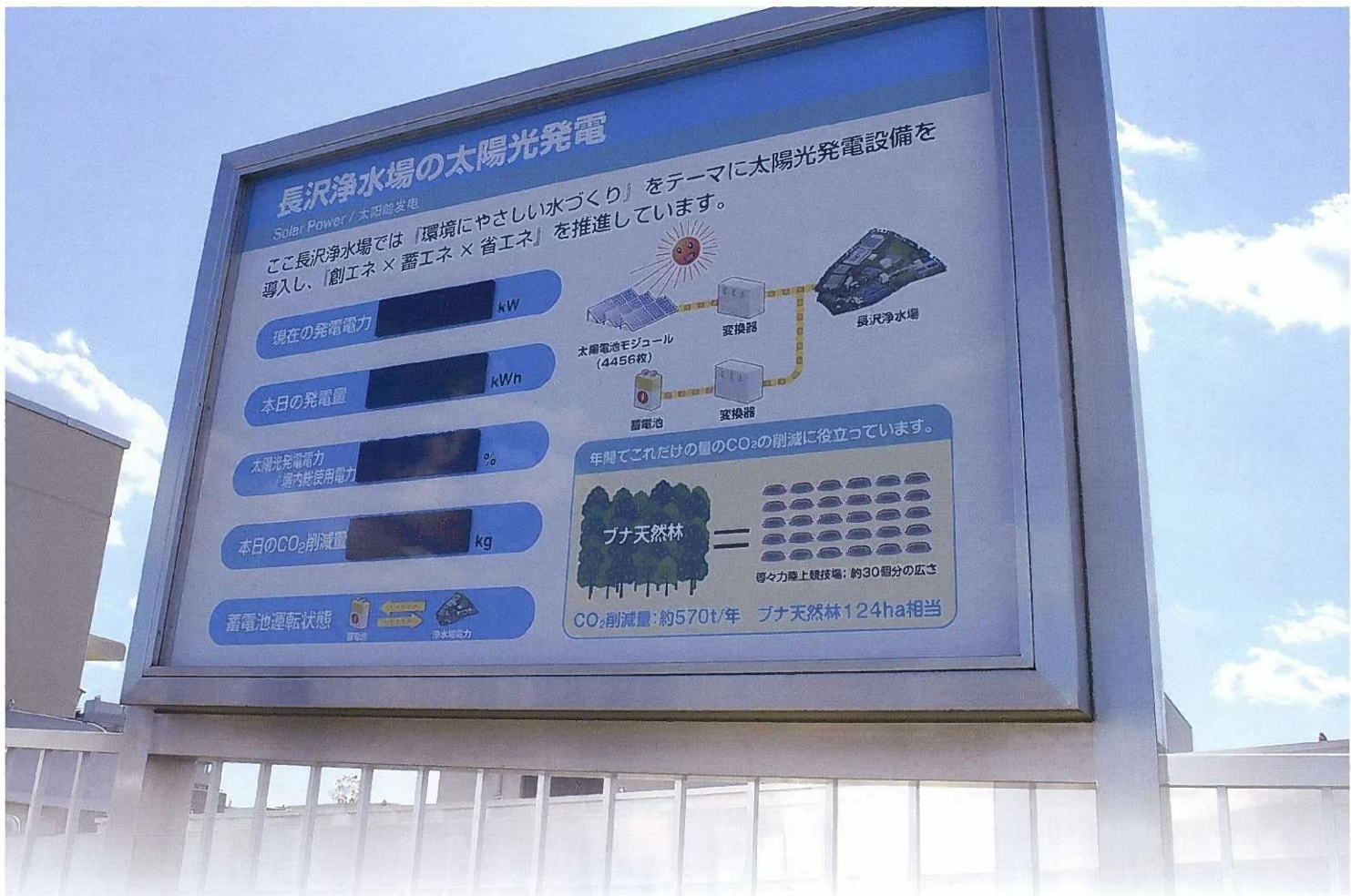


より安全でおいしい水の供給

● 活性炭接触池の整備・ろ過池覆蓋の設置

夏期の臭いの発生に備え、活性炭接触池を整備し、活性炭との接触時間を長くするとともに、ろ過池の上部に覆蓋を設置しました。これにより、より安全でおいしい水を供給することができるようになりました。





案内図



【交通】
 小田急線向ヶ丘遊園駅下車
 北口1番乗り場から[向11]あざみ野駅行. または[向12]
 聖マリアンナ医科大学行で浄水場入口下車 徒歩5分

ISO14001 認証取得事業所

**川崎市上下水道局
 長沢浄水場**

〒214-0034
 神奈川県川崎市多摩区三田5-1-1
 TEL 044(911)2022
 FAX 044(900)9946



川崎市水道キャラクター
 「ウォーターマン」

長沢浄水場広報施設の整備について

長沢浄水場においては、昭和30年代から小学4年生の授業の一環として、水道水の製造工程の理解を促進するために浄水場の施設見学を実施してきました。

平成29年4月の開場に向け、こどもたちや市民、さらに海外からの視察者に対応できる広報施設の整備を進めています。

浄水場の施設見学は、見学棟において講義、ビデオにより事業概要について説明し、水処理の仕組み等の展示を見学した後に、浄水場内の着水井、沈でん池、ろ過池等の水処理施設を水処理の流れに沿って見学していただいています。

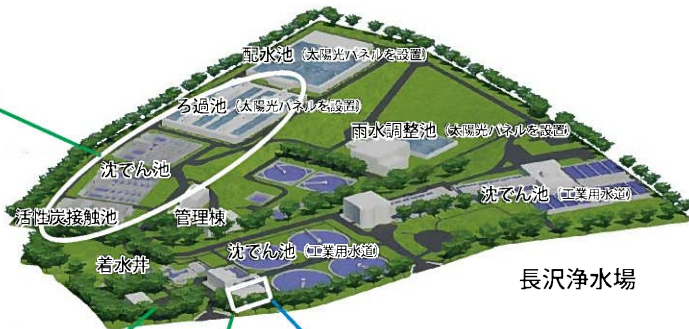
1 整備概要

見学ルート

着水井、活性炭接触池、沈でん池、ろ過池等の水処理施設を見学するための見学ルートをバリアフリーに配慮して整備します。



浄水場見学のようす



駐車場

大型バス3台分、普通車7台分の駐車場を整備します。

見学棟

再構築工事で不要となった旧活性炭注入棟を改修して整備を進めています。



現在の活性炭注入棟

2 展示の考え方

(1) コンセプト

本施設では、自然流下を活かした「かわさき水ものがたり」をコンセプトとして、未来を担う子どもたちや市民、国内外の上下水道事業者等にむけて、将来にわたって市民の生活を守り、今後もレベルアップを続ける川崎の上下水道からのメッセージを発信します。

(2) 展示方針

ア 水循環の流れに沿って展示を構成します。

水道の水は、自然の大きな水循環の一部であることから、水循環の流れに沿って展示を構成します。

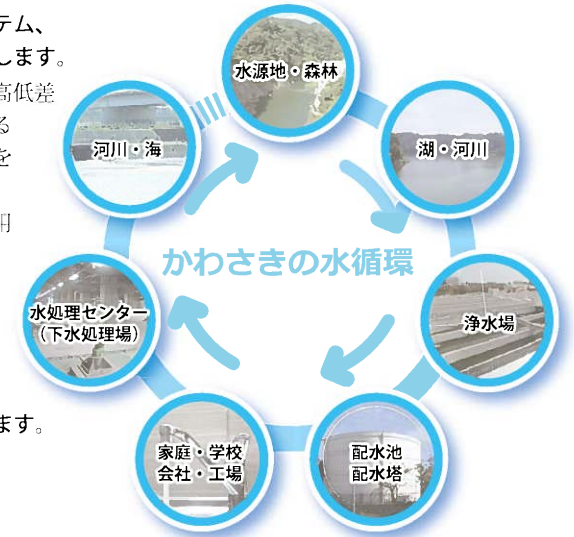
イ 自然の恵みを活かした水道システム、優れた技術等をかわりやすく紹介します。

川崎の水道の特徴である地形の高低差を最大限に利用した自然流下による水道システムを映像・体験・実物を使って伝えます。

また、国際的な技術支援等で活用されている優れた技術等を知りやすく紹介します。

ウ 浄水場の敷地全体にひろがるメッセージ情報の発信をします。

エ 最新の水道技術や取組を発信します。



(3) 小学校教諭からの意見聴取

広報施設の展示内容等については、小学校教諭の意見等を聴きながら進めています。

ア 水のふるさどである森林を守り育てることの大切さを伝える展示にしてほしい。

イ 川崎の水道は、自然流下により水を運んでいることをわかりやすく展示してほしい。

ウ 水がきれいになっていく過程が学べ、家庭で飲む水が浄水場で処理した安全なものであると実感できる展示にしてほしい。

エ 汚い水(処理前)ときれいな水(処理後)の比較ができるとうい。

オ 浄水場に来て、きれいで安全な水が自分たちのところに届いていることを勉強した最後に、水道水を飲める場があると良い。

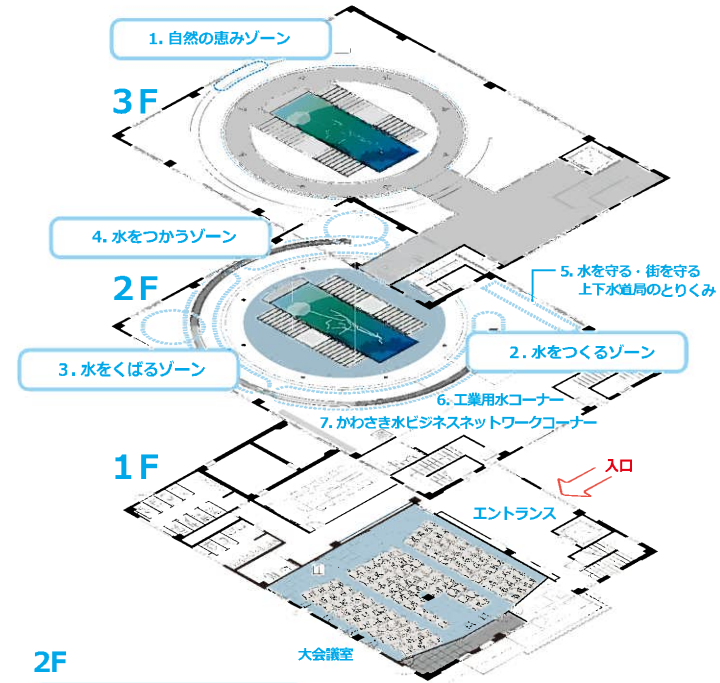
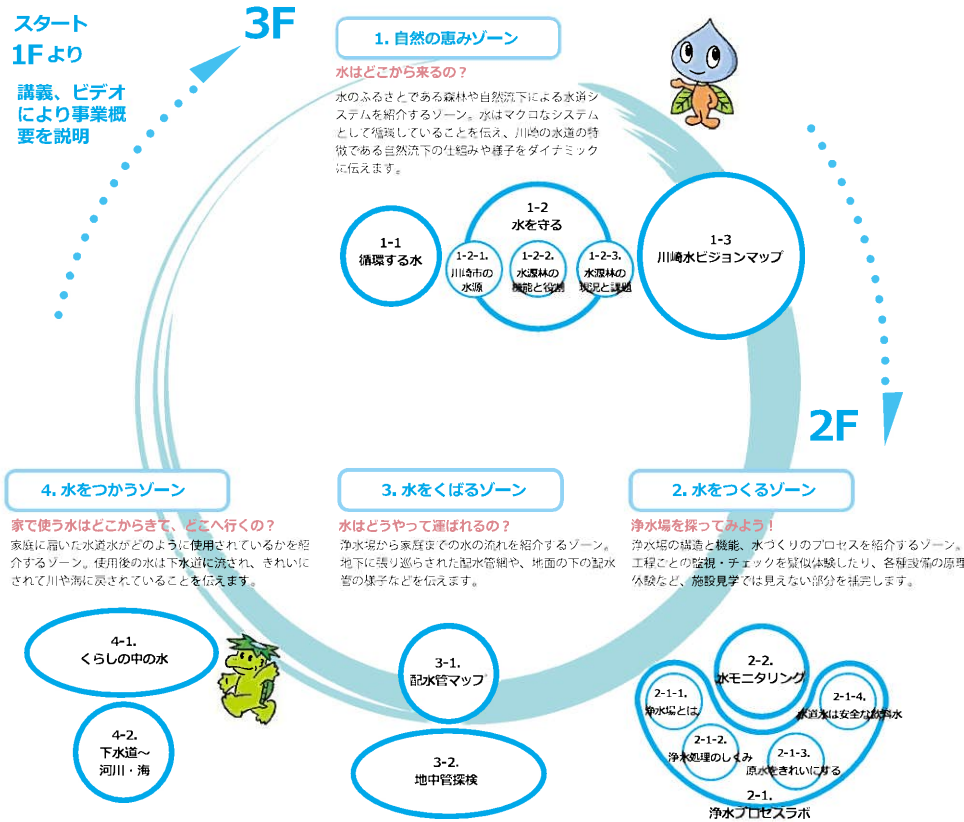
長沢浄水場広報施設の整備について

3 見学棟

(1) 展示の構成

見学棟については、3層構造で整備し、水循環の流れに沿って展示を行います。

水をつくる森や川から、浄水場、家庭、そして海まで ～ “川崎の水づくり” をめぐる旅



5. 水を守る・街を守る 上下水道局のとりくみ

上下水道局の事業の全体像を伝えます。特に環境にやさしい水づくりへの取組、災害への取組についてフォーカスします。

2F

6. 工業用水コーナー

日本初の公営工業用水道事業として給水を開始し、京浜工業地帯の発展を支えてきた川崎の工業用水道を紹介します。

2F

7. かわさき水ビジネスネットワークコーナー

世界の水環境改善に取り組みかわさき水ビジネスネットワークの活動、会員企業の優れた技術・製品を紹介します。特に、川崎市の水技術の海外支援について伝えます。

1F

エントランス

“水循環の中の水道、自然の恵みを活かした水道”というメッセージが来館者に伝わるインパクトある展示と川崎の上下水道の歴史を展示します。

長沢浄水場広報施設の整備について

(2) 見学棟 (1階エントランス・大会議室)

エントランスでは、“水循環の中の水道、自然の恵みを活かした水道”というメッセージを来館者に伝えるとともに、川崎の水道の歴史を紹介します。その後、大会議室で川崎の水道の概要等について講義、ビデオにより説明します。

エントランス



ウェルカムメッセージ

“水循環の中の水道、自然の恵みを活かした水道”というメッセージを来館者に伝えます。

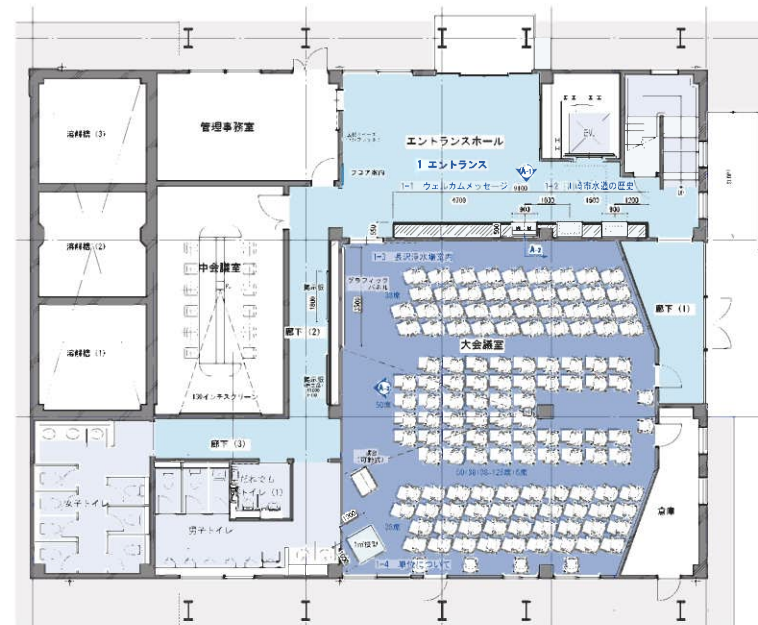


川崎市水道の歴史

水道・下水道・工業用水道が、市域の拡大、人口の増加、経済の発展などによる需要の増加に伴い、段階的に進めてきた整備の歴史を展示し、川崎の水道の歩みを紹介いたします。



※水道の歴史展示資料例



1 F 平面図



講義のようす

長沢浄水場広報施設の整備について

(3) 見学棟 (3階)

1. 自然の恵みゾーン

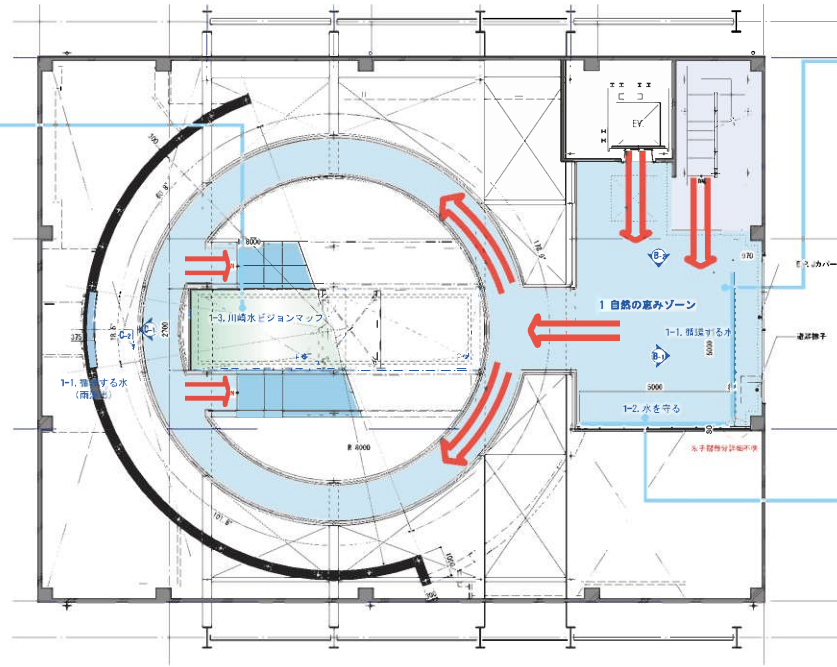
水のふるさとである森林や自然流下による水道システムを紹介するゾーン。水はマクロなシステムとして循環していることを伝え、川崎の水道の特徴である自然流下の仕組みや様子をダイナミックに伝えます。

1-3. 川崎水ビジョンマップ

水循環の流れに沿って、自然の力を大切にした川崎市の水づくりの物語の全体像を一連の演出によって伝えます。



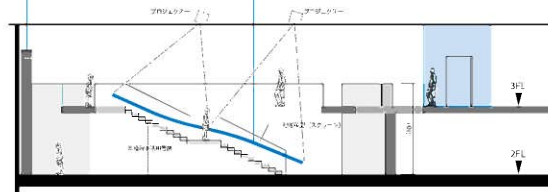
水道の源である森林からの自然流下により浄水場まで運ばれる川崎の水道の特長を、地形模型（スクリーン）と映像を組み合わせて演出します。



3F 平面図

循環する水 (雨の演出)

川崎水ビジョンマップ全体映像演出



1-1. 循環する水

水はかけがえのないものであり、地球上の水は太古から自然の中で循環し、私たちの生活を支えており、水道、下水道は大きな水循環の一部であることを分かりやすく伝えます。

イラスト情報イメージ



1-2. 水を守る

川崎市の水源と主要水道施設の全体像をマップにより展示するとともに水道の源である森林の役割と保全への取組などを伝えます。



忍野八海



相模湖

水源林は、私たちの暮らしに大きく貢献しています

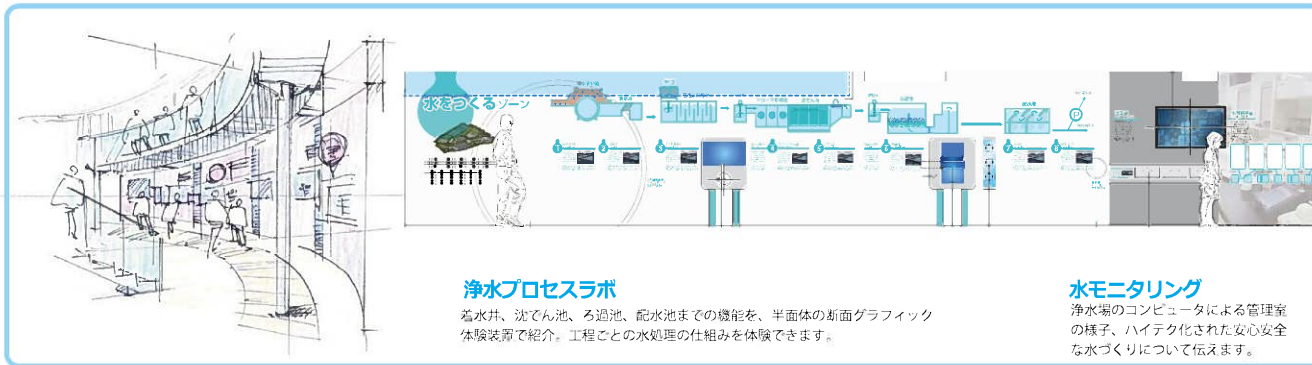
1 水源 森林	2 環境保全効果	3 山崩れ防止効果
<ul style="list-style-type: none"> ● 良質な豊かな水を供給 ● 洪水防止や水質の浄化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 二酸化炭素の吸収 ● 騒音の除去・大気浄化への寄与 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土砂の流出・崩壊の防止 ● 災害に強い山村整備
<p>年間約10億m³の好水 (東京都で2020年の水量に相当)</p>	<p>年間約30万tの二酸化炭素を吸収 (約134万世帯の年間消費電力の発電に相当するCO₂量に相当)</p>	<p>年間約10万m³の土砂の流出を防止</p>

長沢浄水場広報施設の整備について

(4) 見学棟 (2階 その1)

2. 飲み水をつくるゾーン

浄水場の構造と機能、水づくりのプロセスを紹介するゾーン。工程ごとの監視・チェックを疑似体験したり、各種設備の原理体験など、施設見学では見えない部分を補完します。



浄水プロセスラボ

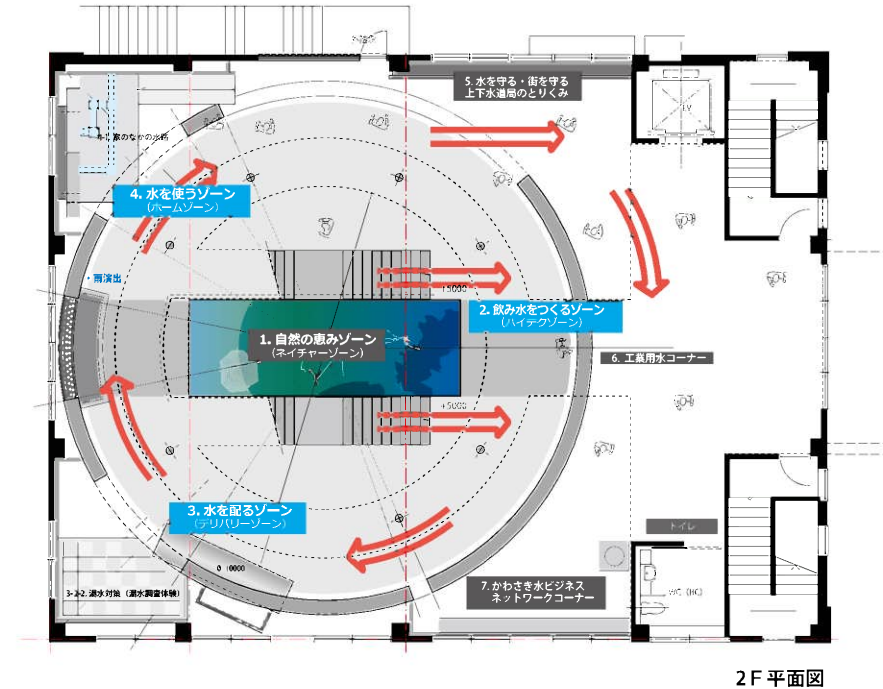
ろ過機、沈殿池、ろ過池、配水池までの機能を、半面体の断面グラフィック体験装置で紹介。工程ごとの水処理の仕組みを体験できます。

水モニタリング

浄水場のコンピュータによる管理室の様子、ハイテク化された安心安全な水づくりについて伝えます。

4. 水を使うゾーン

家庭に届いた水道水がどのように使用されているかを紹介するゾーン。使用後の水は下水道に流れ、きれいにされて川や海に戻されていることを伝えます。

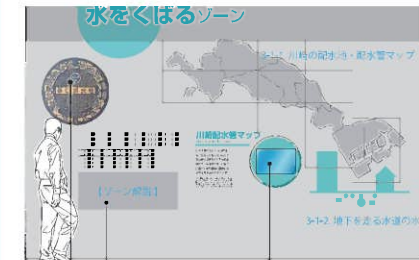


2F 平面図

3. 水を配るゾーン

浄水場から家庭までの水の流れを紹介するゾーン。地下に張り巡らせた配水管網や地面の下の配水管の様子などを伝えます。

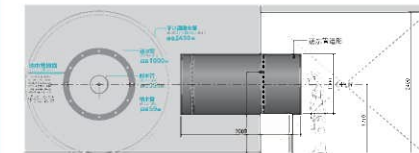
川崎配水管マップ



地面の下に網目状に張り巡らされた配水管の様子を紹介します。

地中管探検

・配水管の種類や役割



老朽化した配水管を地盤に強い配水管に取りかえていることをわかりやすく伝えます。

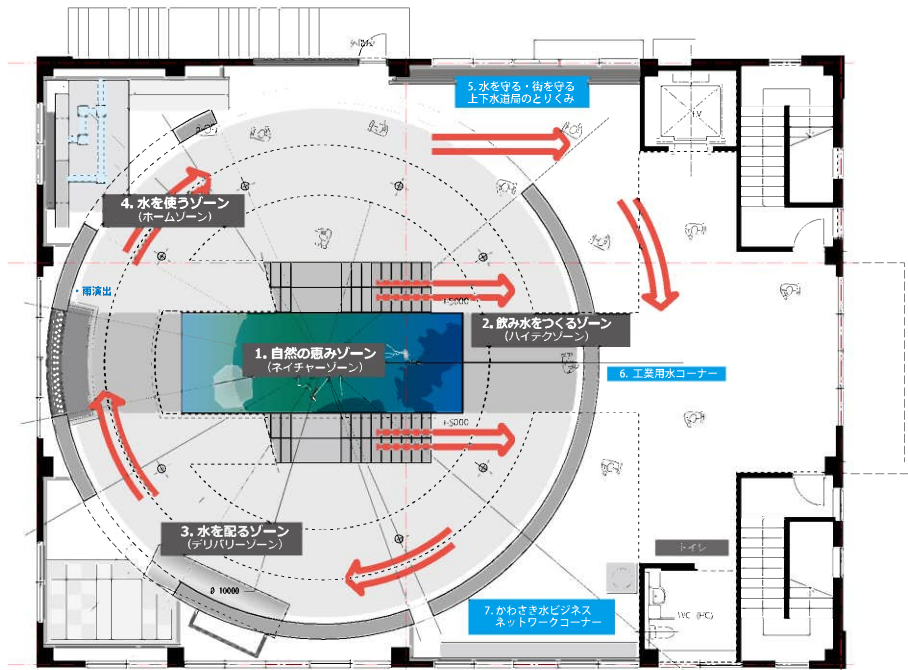
・漏水対策



漏水箇所をヘッドフォン等を用いて探しながら漏水対策を学ぶことができます。

長沢浄水場広報施設の整備について

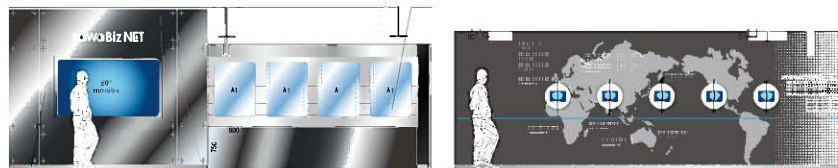
(5) 見学棟 (2階 その2)



2F 平面図

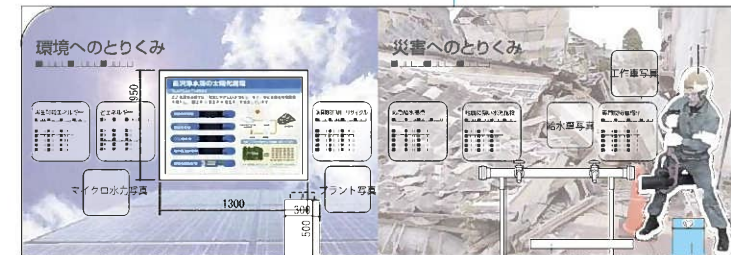
7. かわさきビジネスネットワークコーナー

世界の水環境改善に取り組むかわさきビジネスネットワークの活動、会員企業の優れた技術・製品を紹介します。特に、川崎市の水技術の海外支援について伝えます。



5. 水を守る・街を守る上下水道局のとりくみ

上下水道局の事業の全体像を伝えます。特に環境にやさしい水づくりへの取組、災害への取組についてフォーカスします。



災害への取組

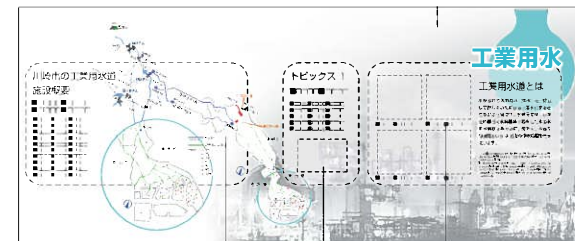
- ・ 応急給水拠点
- ・ 地震に強い水道管
- ・ 1人1日3リットル
- ・ スペシャリストの紹介

環境へのとりくみ

- ・ 小水力発電
- ・ 太陽光発電と配水量 1 m³ 当たりの CO₂ 排出量の他都市比較

6. 工業用水コーナー

日本初の公営工業用水道事業として給水を開始し、京浜工業地帯の発展を支えてきた川崎の工業用水道を紹介します。

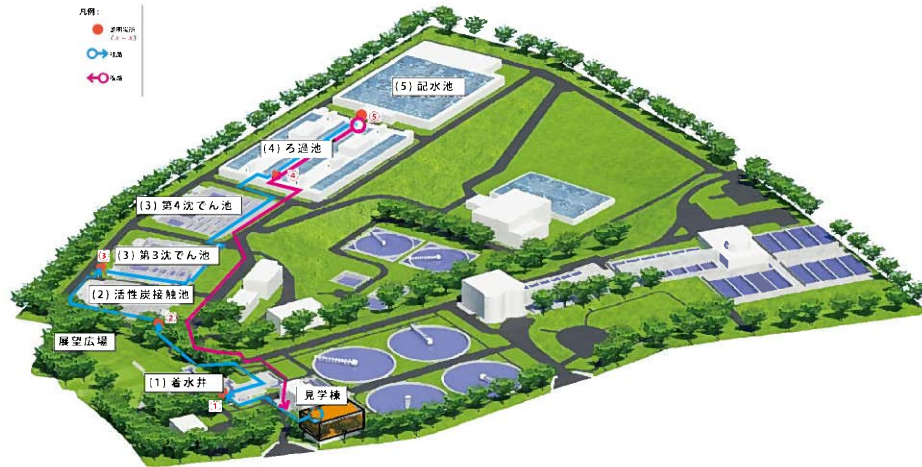


- ・ 工業用水とは
- ・ 工業用水はどのような工場に使われているか
- ・ トピックス

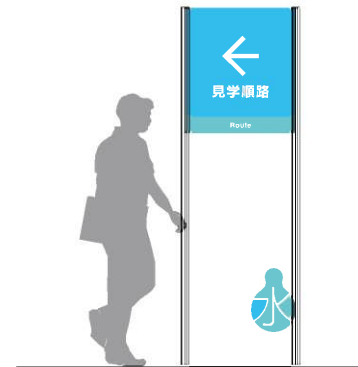
長沢浄水場広報施設の整備について

4 見学ルート

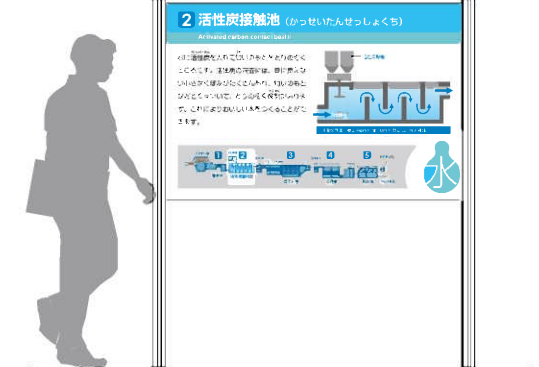
水道水を作る仕組みが理解できるよう、水処理の流れに沿った見学ルートを整備します。



●見学ルート誘導サイン



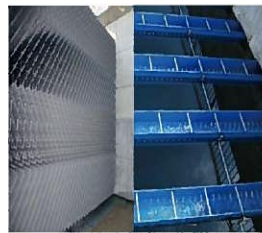
●屋外施設解説グラフィック（活性炭接触池）



(1) 着水井



(2) 活性炭接触池



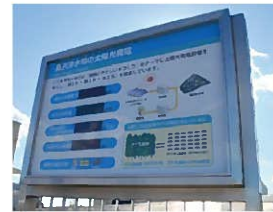
(3) 沈でん池



(4) ろ過池

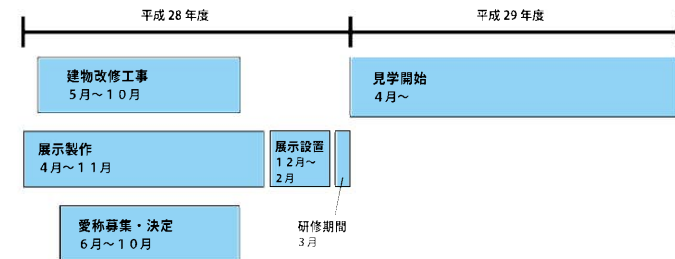


(5) 配水池



太陽光発電

5 整備スケジュール

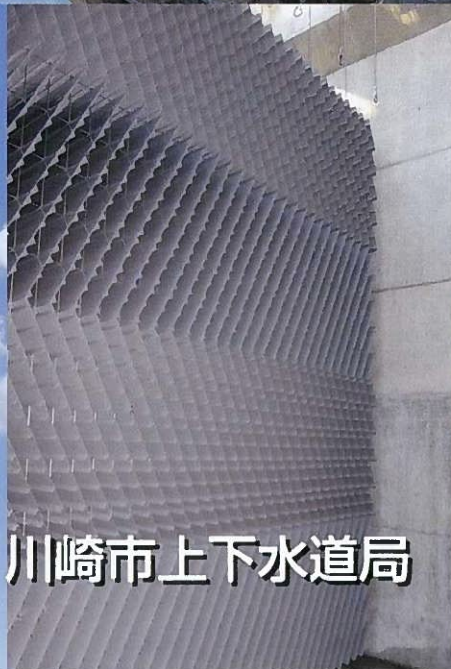
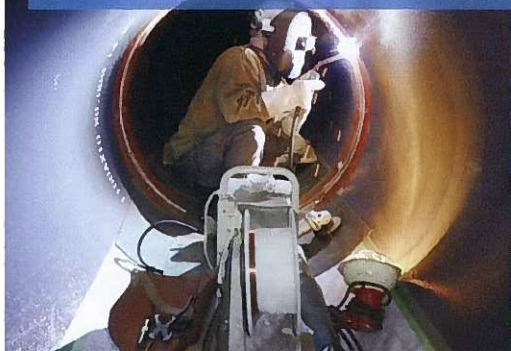




川崎市上下水道局 施設再構築



— 全国に先駆けたダウンサイジングによる
浄水場の統廃合を主軸とした再構築事業 —



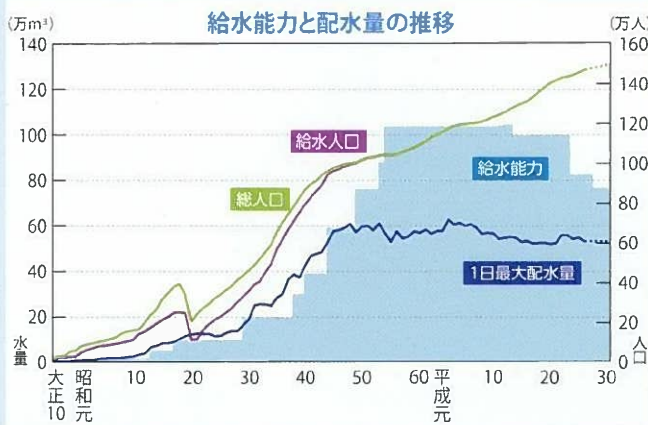
川崎市上下水道局

施設再構築の背景

● 水道事業のあゆみと需要動向

川崎の水道は、大正10年に多摩川の表流水を水源として給水を開始しました。その後、市域の拡大、人口の急増、産業活動の進展などによる水需要の急増に伴い、相模川等を水源として、生田浄水場、長沢浄水場、潮見台浄水場を整備し、平成18年の給水能力は、1日あたり98万9,900m³となっていました。

しかしながら、人口が順調に増加したものの、産業構造の変化や家庭における節水機器の普及等に伴い、水需要は横ばいで推移し、給水能力と配水量がかい離していました。



● 工業用水道事業のあゆみと需要動向

川崎の工業用水道は、昭和12年に我が国最初の公営工業用水道として給水を開始しました。その後、産業活動の進展などによる水需要の急増に伴い、多摩川、相模川等を水源として、生田浄水場、長沢浄水場を整備し、平成18年の給水能力は1日あたり56万m³となっていました。

しかしながら、産業構造の変化や回収水の利用等により、水需要は低迷し、給水能力と配水量がかい離していました。



● 施設の老朽化と災害対策

川崎の水道、工業用水道は、高度経済成長期に整備した浄水場などの大規模な施設の多くが更新時期を迎えており、安全安定給水を確保するため、中長期的な視点から施設の更新が必要となっていました。また、施設の更新に当たっては、大規模地震を想定した施設の耐震性の向上や地球温暖化対策等の環境への配慮が求められていました。



長沢浄水場沈でん池(昭和40年～)



平間配水所調整池(昭和41年～)



再構築計画等の概要

水道事業及び工業用水道事業の再構築計画は、平成18年度から平成28年度を計画期間とし、将来の水需要予測に基づき、安全安定給水を確保した上で適正な事業規模に見直しを行うことで、健全な経営基盤の確立を目指すものです。

給水能力の見直し（水道事業）

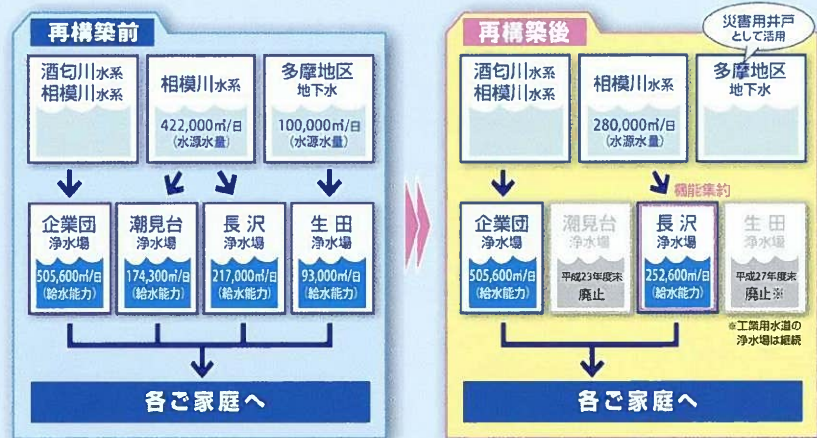
水源における水質事故などの緊急時への対応も考慮し、給水能力を989,900m³/日から758,200m³/日にダウンサイジングしました。

給水能力の見直し（工業用水道事業）

将来の工業用水道使用者の契約水量の動向を踏まえ給水能力を560,000m³/日から520,000m³/日にダウンサイジングしました。

浄水機能の集約（水道事業）

給水能力の見直しに当たっては、最も新しく広域的な視点から効率的に施設が配置されている神奈川県内広域水道企業団からの受水を継続することとし、自己水源である相模川、酒匂川、地下水について、水源としての安定性、安全性に加えて、コスト、環境負荷を考慮した結果、潮見台浄水場と生田浄水場を廃止し、長沢浄水場に浄水機能を集約しました。



災害につよく、環境にやさしい施設整備



地震等の災害への備え

水源におけるリスクを分散するため、相模川、酒匂川の2つの水系を維持するとともに、再構築に伴う施設整備に当たっては、個々の施設の耐震性を強化するだけでなく、緊急時を想定したバックアップ施設の整備や機能強化を図り、システム全体としての緊急時に対応できる体制としています。

環境への配慮

川崎の東西に細長く、地形の高低差を活用した自然流下による環境にやさしい水道システムを継続するとともに、再生エネルギーの活用などに取り組んでいます。

水道事業中期計画・工業用水道事業中期計画

東日本大震災以降、配水池の早期耐震化や自家発電設備の設置対象施設の拡大、管路の更新・耐震化などを積極的に進めています。こうした取組などを計画的かつ着実に継続するため、平成28年度までの3か年の施策を中期計画として取りまとめ、施設の更新・耐震化などを推進しています。

● 水道事業の再構築計画による施設整備のあゆみ

平成18年度	川崎市水道事業の再構築計画策定
平成22年度	長沢浄水場 第3着水井新設工事完了 長沢浄水場 第4沈でん池築造工事完了
平成23年度	潮見台浄水場廃止
平成24年度	上水1・3号送水管布設工事完了 長沢配水池築造工事完了 長沢浄水場 ろ過池築造工事完了 長沢浄水場 生田送水ポンプ設備設置工事完了
平成25年度	長沢浄水場 1期工事完成に伴い日量140,000m ³ 処理開始
平成26年度	長沢浄水場 雨水調整池築造工事完了 長沢浄水場 太陽光発電設備設置工事完了
平成27年度	生田送水管布設工事完了 生田配水池更新工事完了 長沢浄水場 第3沈でん池築造工事完了 長沢浄水場 活性炭接触池新設工事完了 生田浄水場 上水浄水処理廃止
平成28年度	長沢浄水場 2期工事完成に伴い日量280,000m ³ 処理開始 長沢浄水場 場内整備工事完了



生田配水池更新(～平成27年度)



活性炭接触池新設(～平成27年度)

● 環境にやさしい長沢浄水場

省エネルギー型浄水場

▶ 長沢浄水場は、着水井から配水池までの送水に動力を使用せず、地形の高低差を活かした自然流下で行っています。また、ろ過池、配水池、雨水調整池の上部に発電能力1,155kWの太陽光パネルを設置し、発電した電力は、場内で使用しています。使い切れなかった電力は、蓄電池に充電し、夜間や停電時に使用します。



ろ過砂の自己水逆洗方式の採用

▶ ろ過池の更新に当たり、ろ過砂の洗浄方法を揚水ポンプや洗砂水槽を使用しない自己水逆洗方式とすることで、ポンプ動力を削減します。

年間洗浄ポンプ使用電力量

平成24年度 62,000kWh/年 (CO₂換算29t)
平成28年度 約10,000kWh/年 (CO₂換算5t) [見込み]

水道・工業用水道事業の再構築計画と中期計画等の取組

10年間の取組により、事業規模をダウンサイジングするとともに、災害に強く、環境にやさしい水道、工業用水道にレベルアップしました。

浄水場の再構築

ダウンサイジングにより市内3つの浄水場を1つに集約

長沢浄水場の再構築

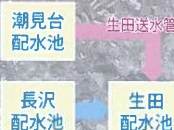
- ▶ 長沢浄水場を更新するとともに、浄水機能を集約し、処理能力を24万m³/日から28万m³/日に増強しました。
- ▶ 浄水場を1つに集約したことにより、施設の更新、耐震化を短期間で実現しました。
- ▶ 浄水場の更新に当たり、活性炭接触池を新設し、よりおいしい水道水の供給を可能とするとともに、省エネルギー型のろ過池、太陽光発電設備を導入し、より環境にやさしい浄水場になりました。



各配水池をつなぐルートを整備し災害時のバックアップ機能を強化

生田送水管の整備

- ▶ 潮見台配水池から生田配水池への送水管を廃止となる既設管を利用して整備し、生田配水池への送水ルートの一重化を図りました。



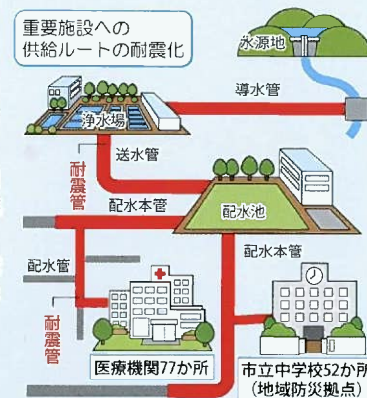
配水池(塔)の耐震化

- ▶ 生田配水池の更新、鷺沼配水池の耐震補強を行いました。また、末吉配水池、宮崎配水塔等の更新を進めています。



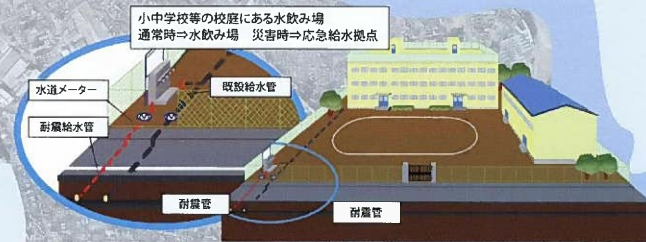
配水管の耐震化

- ▶ 老朽配水管の更新時に、配水管の耐震化を推進しています。平成30年度以降は、配水管の60年サイクルの更新を目指します。
- ▶ 重要な医療機関(77か所)、地域防災拠点(52か所)への供給ルートの耐震化を完了しました。
- ▶ 重要施設の範囲を拡大し、市立小学校や高校等の避難所(123か所)を新たに追加して整備を進めています。



応急給水拠点の整備

- ▶ 半径750m以内で応急給水が受けられるよう、市内139か所の整備を平成25年度に完了しました。
- ▶ 平成26年度からは、より利便性の高い、迅速な応急給水のための新たな取組として、配水池・配水塔や小中学校の水飲み場を利用した開設不要型の応急給水拠点の整備を進めています。



水道事業再構築等の成果 (平成27年度末)

- ▶ 再構築計画等の実施により、次のとおり施設の耐震化率等が向上しました。



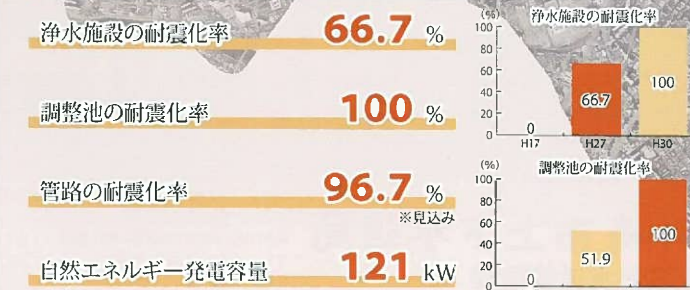
工業用水道事業の再構築

- ▶ 稲田取水所ポンプ設備、長沢調整池、生田調整池、平間調整池の更新、耐震化を行いました。平間調整池には小水力発電設備を設置しました。



工業用水道事業再構築等の成果 (平成27年度末)

- ▶ 再構築計画等の実施により、次のとおり施設の耐震化率等が向上しました。



● 工業用水道事業の再構築計画による施設整備のあゆみ

平成18年度	川崎市工業用水道事業の再構築計画策定
平成20年度	長沢浄水場 調整池改造工事完了
平成22年度	生田浄水場 調整池築造工事完了
	生田浄水場 サージタンク設置工事完了
平成24年度	生田浄水場 工水送水ポンプ設置工事完了
平成26年度	稲田取水所 導水ポンプ設備更新工事完了
平成27年度	平間配水所 調整池更新工事完了
	平間配水所 配水ポンプ設備更新工事完了
平成28年度	長沢浄水場 場内整備工事完了



生田調整池築造（～平成22年度）



平間調整池更新（～平成27年度）

● 用地の有効利用 ～収益性の確保を前提として、まちづくりに貢献します～

施設の再構築により、水道用地の有効利用が可能となったことから、市民利用施設等を整備し、再構築事業の成果を市民に還元します。

生田浄水場用地の有効利用

▶ 整備の方向性

スポーツ広場

民間の資金やノウハウを活用し、グラウンド、テニスコート、クラブハウスなどを整備します。

ふれあい広場・多目的広場

誰もが集い憩えるふれあい広場、地域住民がスポーツや地域活動に使用できる多目的広場を整備します。

災害時の一時避難場所・活動拠点

応急給水拠点、マンホールトイレ等を整備します。



平間配水所用地の有効利用

▶ 整備の方向性

行政ニーズへの対応

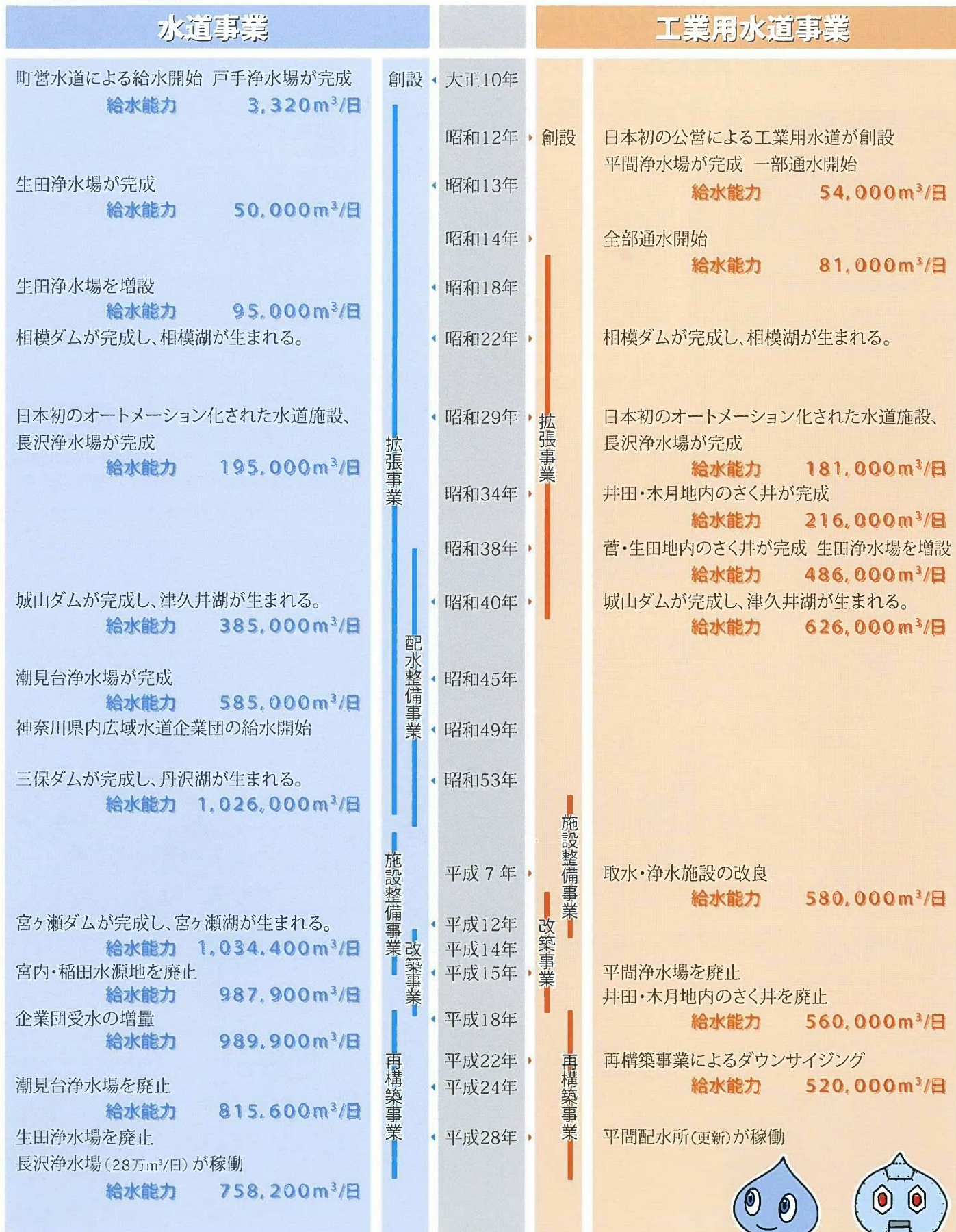
中部学校給食センター（教育委員会）、動物愛護センター（健康福祉局）、障害者通所事業所（健康福祉局）を整備します。

市民が利用可能な緑地の整備

民間企業に用地を貸し付け、災害時の一時避難場所にも活用できる緑地を整備します。



川崎水道の歴史

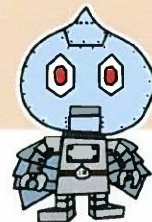


川崎市上下水道局
水道部水道管理課

〒210-8577
神奈川県川崎市川崎区宮本町1番地
TEL 044 (200) 3146
FAX 044 (200) 3943



川崎市水道キャラクター
「ウォータン」



「メカウォータン」

平成28年3月発行

長沢浄水場再構築完成に伴う見学会について

平成18年度より浄水場の統廃合による施設の再構築を進め、長沢浄水場の耐震化を図るとともに、太陽光発電の導入、雨水調整池の整備等を行い、災害に強く環境にやさしい浄水場として、平成28年3月に完成の運びとなりました。

このたび近隣住民の皆様方に、長沢浄水場の見学会を次のとおり開催いたしました。

1 日 時

平成28年4月26日（火）午前10時～

○長沢浄水場の概要説明・ビデオ視聴

○浄水場内の見学

導水ずい道着水、着水井、活性炭接触池、沈でん池、ろ過池、配水池、太陽光発電施設、開設不要型応急給水施設

2 参加人数

115名

3 見学会風景

【大会議室での概要説明】



【導水ずい道着水】



【活性炭接触池】



【太陽光発電施設】

